

学力向上だより

#5 R2.6.30

文責 学力向上推進係 中井

最近、3年生では人生初の「わり算」の学習、4年生では人生初の「わり算の筆算」、5年生は小数のかけ算の学習をしています。(もう終了している学年もありますが)

これらの学習で頭を悩ますのは、「九九を正しく覚えていない」ことです。

かけ算九九は2年生の9月から11月頃に学習します。先生方はかけ算の重要性を非常によくわかっているため、本当にしっかりと指導してくださっています。子どもたち全員が、かけ算九九をすべてすらすらと暗唱できるまで頑張らせています。

それなのに、なぜ学年が進むと九九を覚えていないのか。算数の単元配列表を見てみますと…。

学年	単元番号	単元名	学習時期
2年	1	かけ算九九	9月末~11月
	4か月間		
3年	1	かけ算	4月
	3	わり算	5月
	2か月間		
	7	わり算(余りあり)	7月
	9	かけ算の筆算	8月
	10	わり算や分数	9月
	3か月間		
	16	かけ算の筆算	12月
3か月間			
4年	1	3桁×3桁のかけ算	4月
	3	わり算の筆算(1)	5月
	3か月間		
	6	わり算の筆算(2)	8月
	3か月間		
	12	面積	11月
	13	小数のかけ算わり算	1月
3か月間			
5年	2	体積	4月
	4	小数のかけ算	5月
	5	小数のわり算	5月~6月
	この後省略		

黄色で塗りつぶしているところはかけ算に関する学習をしていない期間です。

このかけ算に関連した学習をしていない時期に、いかに忘れないような手立てをとるかではないかと思えます。

3年生が4月のかけ算、わり算の学習が始まる前は、九九があやしい子が何人もいました。が、これらの学習を進めるうちに、九九が確実になってきました。一度覚えたことなので、また学習をすることですぐに思い出せるようになっているのです。

では、忘れないような手立てとはどのような事でしょうか。

きっと、宿題などで復習プリントを課していると思います。ときには目先を変えて、授業のはじまりなどで九九を唱えさせてみるとか、かけ算カードで即答させ競わせるとか。

大事なことは、間違えた九九をそのままにしない、何に躓きがあるのかを子どもも指導者も意識することが大事ではないかと思えます。

九九検定など、子どもたちが一生懸命目の前で九九を唱えているのをみると、ついつい情が移り、「ちょっと覚えきれないところもあるけど、がんばっているからいいか。」と合格させてしまうことってありませんか。わたしは若いころ鬼のように「すぐに答えられないからダメ」「はっきり言えてないからダメ」などとダメ出しばかりしていました。が、最近は自分でも甘くなってしまうような気がしています。でも、そうすると、子どもたちがあとで大変な思いをすることになるんですね。その子の特性に配慮しつつも、頑張るときには頑張らせたいと思います。